

発行

岡山県民主医療機関連合会

岡山市北区下伊福西町1-53
岡山県民会館3F
TEL (086) 214-3911

2018年8月号 No.334

E-mail:kikanshi@okayama-min-iren.org
URL:http://www.okayama-min-iren.org

おかやま民医連

2018年度岡山県民医連看護学習会

「今、もとめられる看護とは、看護の魅力とケアすることの意味」

日時：10月27日(土)午後2時～4時

会場：おかやま未来ホール

(イオンモール岡山5階)

講師：川嶋みどり先生(日本赤十字看護大 学名譽教授)

参加申し込み：岡山県民医連加盟院所の方は、各院所の担当者へ申し込みを。加盟院所外の方は岡山県民医連事務局へお問い合わせください。

いまこそ心ひらいて

西日本集中豪雨 被災地支援

7月6日～7日の西日本集中豪雨により、岡山県内でも各地で河川の氾濫等による災害が発生しました。岡山県民医連と各法人・院所では対策本部を立ち上げ、災害情報の収集及び発信、災害対応の方針のもと、全力で支援を行っています。

多くのいのちが奪われた倉敷市真備町では倉敷市に協力しながら支援を進めています。避難所となっている小中学校のうち2か所は水島協同病院が責任を持ち、岡山協立病院やMMAT(民医連災害支援チーム)、虹の薬局の協力も得ながら医療支援を行っています。避難者からは「薬がなかったため、本当にありがたい」などと喜ばれています。

また、医師体制の不足から使用していた20余りのベッドを開放し、全日本民医連や藤田保健衛生大学病院の医師支援も得ながら被災地からの入院の受け入れを行っています。



浸水被害を受けた真備歯科診療所の内部

岡山市東区上道地区では、岡山医療生協と林財団、

つばさ薬局、岡山中央福祉会などが中心になり、組合員訪問や岡山市を窓口にした支援に参加しています。泥の掻き出し支援を受けた高齢者からは「一人では何もできないなか、本当に助かります」と喜ばれました。いまだ復旧までには長い時間がかかり、多くの被災者の方々が避難所生活などを余儀なくされています。岡山県民医連では引き続き、医療支援やボランティア参加、義援金の呼びかけを行っています。職員の



くわみず病院(熊本県)から送られた、くまモンのタペストリー



避難所訪問に出発する岡山医療生協の支援チームと、水島協同病院のメンバー(7月10日、水島協同病院)



歯科スタッフの訪問

みなさんのご協力をお願いします。 國塩 聖和(岡山県民医連事務局)

点滴

▼昨年の8月6日、私は広島にいた。医事課であれば保険請求の真つただ中であるが、日曜日から行くことができず、そのため、何となく7年に一回は参加しようと思っていたが、十四年ぶり、4回目の原水爆禁止世界大会であった。▼原爆ドーム前に集合、グループに分かれ、今回初めて、現地ガイドの方の案内で、平和公園内を歩いた。▼「七十二年前の八時十五分、今と同じような快晴の青空に突如として、人類史上初の原子爆弾(原爆)は、地上六百mの上空で炸裂し、中心温度一〇〇万度の火の玉をつくった。爆心地周辺の地表の温度は三〇〇℃、四〇〇℃に達したという。爆心地から一、二kmの範囲内では、その日のうちに約五割が死亡し、その年の十二月末までに約十四万人が死亡したと推計されている。」とネットでは書かれている。▼しかし、なぜ八時十五分なのか?なぜ地上六百m上空で爆発させたのか、明らかに軍隊を攻撃の対象としたのではなく、小さな子供たちを含む一般の市民を殲滅の対象としている。当時の広島市内の人々の生活を思い浮かべながら、その残酷性、非人道性が理屈ではなく、魂から揺さぶられるような感覚で伝わってきた。▼戦争は命を救う医療とは対極にある。あの日の出来事を決して風化させてはならない。(K)

国民平和大行進



休憩後、曹源寺を出発する行進団 (7月18日)

今年も国民平和大行進が岡山入り。連日の猛暑で一部コースが変更されましたが、民医連からも職員が参加して核兵器廃絶を訴えました。7月18日は、岡山市役所東区支所から岡山県庁のコースを岡山中央福祉会の職員が元気に行進しました。

参加者のひとり、岡田つばささん(穂香の里)は「今回初めて参加しました。昨年度、民医連平和ゼミナールで多くのことを学び、私たちがいま生きている社会は決して当たり前でなく、平和憲法のもとでつくりあげられてきた賜物であると知りました。戦争のない、そして核のない世界をこれからもつくっていかけるように、若い世代の私たちが何かひとつでも行動できるように、若い世代の私たちが何かひとつでも行動できる大切さを感じています」と話してくれました。また、遠藤大祐さん(健康園デイサービスセンター)は「核兵器はいらないし、戦争をしてはいけません。これからは平和について、自分に何ができるか考えて実行することが大事だと思います」と話してくれました。

(穂香の里・安田友祐)



講演される山本昌知先生

毎年、全国の民医連精神科研修医や指導医が集まり、研修の不安や改善点、患者さんから学んだことを持ち寄り、励ましあう「精神科研修交流会」を行っています。そして今年7月14日～15日、岡山にて11年ぶりに開催されました。

テーマは、林病院が得意としてきた『地域医療』に向き合える会にしたいと考え、『地域包括ケア時代の精神科と研修』としました。

プログラムは、入院医療中心の時代にあっても精神保健福祉センターや「こらーる岡山」にて地域で診ることを貫いた山本昌知先生のご講演を中心に据え、日本に次いで民間精神科病床が多かったベルギーの改革の視察報告や、より地域に開かれた病院になるために研修はどうあるべきか



中央が原医師

と議論したシンポジウムなど、盛り沢山となりました。

全国各地から医師32名と、これからの民医連精神科医療を担うであろう(と勝手に期待している)医学生9名を含めた総勢105名のうちに参加いただき、大盛況のうちに終わることが出来ました。初の看護企画の試みも、大勢集まっていた良かったです。

名ばかりの大会長でしたが、今後の民医連精神科を担う医師として、病を診るだけでなく、患者さんと地域との懸け橋になれるよう改めて決意する会でした。

大会長
林道倫精神科神経科病院
医師 原 紘志



シンポジウムの様子

をよく見かけますが、私が最近購入したのは「電動機付き自転車」です。今年の春に、初めて電動自転車です。サイクリングをしてからずっと、欲しい気持ちを抑えきれずとうとう購入しました。

これまでの移動手段は殆んど自転車でしたが、今では自転車で1時間圏内の場所であれば、率先して自転車に乗って出かけています。急な坂道もすいすい漕げて楽ちんですし、気になったお店にもさっと立ち寄り、また、ゆつくりと変わっていく自転車の風景を楽しんでいます。まだ暑くなる前には、職場の友人との待ち合わせ場所に1時間強の時間をかけて、約15キロの道のりを自転車で行ってみました。ちよつと無理なせいか帰ったころにはお尻がバキバキになっていましたが、心地の良い疲労感と達成感で、充実した休日をごすことができました！まだまだ暑いので、少し涼しくなった頃に友人とサイクリングをする約束が今の楽しみです！

妹尾陽子
(岡山県民連事務局)



クロスバイクやロードバイクで颯爽と走っている人

私のとっておき！

急な坂道もスuisui

春に、初めて電動自転車です。サイクリングをしてからずっと、欲しい気持ちを抑えきれずとうとう購入しました。

これまでの移動手段は殆んど自転車でしたが、今では自転車で1時間圏内の場所であれば、率先して自転車に乗って出かけています。急な坂道もすいすい漕げて楽ちんですし、気になったお店にもさっと立ち寄り、また、ゆつくりと変わっていく自転車の風景を楽しんでいます。まだ暑くなる前には、職場の友人との待ち合わせ場所に1時間強の時間をかけて、約15キロの道のりを自転車で行ってみました。ちよつと無理なせいか帰ったころにはお尻がバキバキになっていましたが、心地の良い疲労感と達成感で、充実した休日をごすことができました！まだまだ暑いので、少し涼しくなった頃に友人とサイクリングをする約束が今の楽しみです！

妹尾陽子
(岡山県民連事務局)

精神科研修交流会を終えて